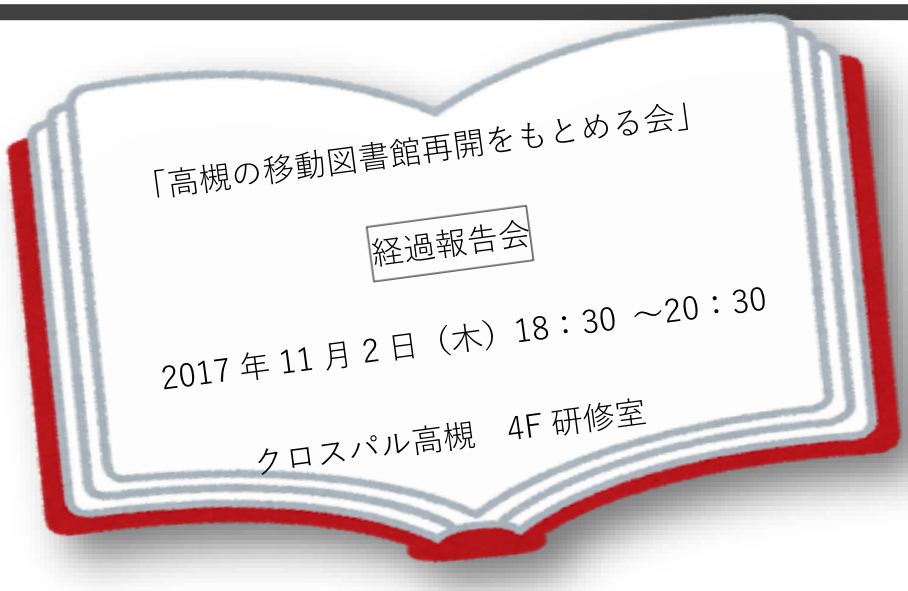
走れ！きぼうGOだより　NO1

高槻の移動図書館再開をもとめる会発行　2017年11月号

私たちは「子どもの文化ネットワーク」主催（「高槻にみんなの図書館をつくる会」協力）の学習会に参加し、市民のさまざまな声を聞きました。 その場で再開を求める強い声を耳にして、2017年10月1日付で「高槻の移動図書館再開をもとめる会―走れ！きぼう号」を発足いたしました。

私たち市民・図書館・行政が力を合わせて高槻市に居住するすべての人の声が届く図書館づくりを考えてゆきたいと願っています。



平日の夜にもかかわらず、会場いっぱいに多くの方々が参加くださいました。
始めに　絵本『ほんはまっています のぞんでいます』
（かこさとし(作)・2017年5月復刊ドットコム）　を
パワーポイントに映す読み語りです。
大切なシンボルとなる意味をこめて和やかに会はスタートしました。

●●● これまでの経過　発足まで●●●

2017年4月　図書館ホームページに「移動図書館休止のおしらせ」
- 5月9日 子ども文化ネット主催（「みんなの図書館をつくる会」協力）第1回学習会
- 6月22日 市議会にて　2人の議員より図書館および移動図書館に関する一般質問
- 7月27日 子ども文化ネット主催（「みんなの図書館をつくる会」協力）第2回学習会
- 8月9日　平成29年度第1回図書館協議会
- 9月26日 市議会にて　図書館および移動図書館に関する一般質問
- 9/28～10/11　図書館アンケート調査（「仮称まちごと図書館」案について）
- 10月1日　本会「高槻の移動図書館再開をもとめる会―走れ！きぼう号」発足

●●● 高槻市立図書館について ●●●

1）高槻市の図書館のあゆみ　概略

1943 年　高槻市制施行　　1968 年　天神山図書館開館

1973 年　市制施行 30 周年記念事業として自動車文庫設置（今年は開始 44 年目）

1988 年　市制施行 45 周年　小寺池図書館開館

1994 年　中央図書館開館　　1995 年　「高槻市立図書館運営・整備基本方針」（１０館構想）

2003 年　芝生図書館開館　　2004 年　阿武山図書館開館

2008 年　「高槻市立図書館整備方針」（７館構想に縮小）

2013 年　3 月天神山図書館　老朽化により閉館（保存庫・配送センターへ）

6 月服部図書館開館

2017 年現在　５館＋移動図書館

2）『日本の図書館　統計２０１５』より

北摂および近隣各市の司書正職員数

（豊中―44 人、吹田―47 人、茨木―21 人、枚方―37 人）と比較

高槻市では司書正職員数が 11 人という少人数の驚くべき実態。長期間、司書採用がない。

3）移動図書館およびサービスステーションに関して

休止前、2017 年 3 月までは、23 ステーションあり、休止のために不便を強いられているのが現状。柱本・三箇牧・竹の内、大冠・上牧・五領・原・樫田など図書館から遠隔地にある地域には、本を手渡す必要がある。今年度、入札で折り合いがつかず休止となったが、移動図書館が来ず困っている人はいるので、ぜひ行ってほしい。

●●● わたしたちの思い描いた協力プラン ●●●

当日資料を基に「将来につながる移動図書館復旧プラン」の説明

（※スクリーンに映し、丁寧に説明しましたが、次号で具体的に解説紹介予定です。）

●●●　移動図書館関連本・世界の移動図書館の紹介　●●●

📖『ぼくのブックウーマン』

（ヘザー・ヘンソン/絵：デイビッド・スモール/訳：藤原 宏之/さえら書房）

📖『こないかな、ロバの図書館』

（モニカ・ブラウン/絵：ジョン・パッラ/訳：斉藤 規/新日本出版社 ）

📖『図書館ラクダがやってくる』（ﾙｱｰｽﾞ・ﾏｰｸﾞﾘｰﾄさく／斎藤規やく　さえら書房）

📖『走れ！移動図書館-本でよりそう復興支援-』鎌倉幸子/筑摩書房

〇オーストラリアの移動図書館

〇インドネシアの移動図書館

〇タイの移動図書館

〇イギリス　海辺の移動図書館

〇松戸市　高齢者施設・病院施設等へ施設巡回サービスを実施

フロアからの意見

〇学童指導員をしていた頃は移動図書館をよく利用していた。移動図書館が休止の状態は寂しい。高齢化社会の到来。遠隔地に図書館（７館構想）や分室が実現できたとしても、移動図書館はなくさないで欲しい。

〇図書館アンケートの内容では移動図書館を利用した人の声は反映されない内容。きぼう号も公用車の規定（10 年）と同じように当てはめているが、走行距離など少なく、走行可能。同様にするのは賛同しかねる。

〇未来のための経営革新でいろんなサービスが廃止、縮小されている。今回の移動図書館きぼう号についての行政措置や 9 月末に縮小されたサービスコーナーも同様。この会の活動などが、それを食い止める流れになれば良いと思う。

〇本なしには生きられない世代、平日の図書館は素敵です。高齢者である私は移動図書館の存続を切に願います。

〇「樫田のみらいを語ろう」プロジェクトに携わっている。樫田は 5 カ村がひとつの地域となっていて、移動図書館が来ているところに行くのも一苦労であるが、行くことによって地域の絆や結びつきができる。地域の活性化するきっかけにもなると思う。村の鎮守さんのような役割をしてほしい。

〇高齢化社会に向かっていく今の時代だからこそ、移動図書館は必要。何かと組み合わせるような運営を行うと活性化につながる。「お金がない」ではなく、一緒に共働することが大事。

〇高槻市図書館行政（整備方針）に市民が参画することが必要。

〇図書館協議員として活動します。アンケート分母 3000　回収率 7 割　集計内容は現在非公開。きぼう号はまだまだ走れる。入札不調は市の不策。11/16　2 回目の協議会が召集されるが予算要求もしていく。来年度に反映されるか不明だが、教育委員会の凝り固まった考えをほぐすのも必要。継続的に粘り強く運動を続けてほしい。

感想から

〇 日頃ボランティアで図書館でお話や読み聞かせをしていますが、図書館の取り組みへの実情を知りました。市の子供や本を愛する人たちへの視線がほしいです。本を読むことで子供達の心に生きる火を灯すことになるためにも–、消さないで下さい。移動図書館を、と訴えたいです。

〇 色々聞かせて貰い、余りにも図書館の事を、今日は教えていただきました。
私も８１歳になり図書館に行けなくなる日が来ると思います。移動図書館は必要です。

○ 他市や他国の様子をお聞きし、改めて現在の高槻市の状況が残念でなりません。図書館は誰にでも平等で開かれた場所で、遠隔地だからといって切りすてないでほしいし、格差のないようでなければならない。
移動図書館ならではの「やってくる」という楽しさ、魅力もある。地域おこしと共に考えていけたら、高槻の新たな名物として打ちだしていけないだろうか。

○ 図書館アンケートは、移動図書館より「まち図書」の方が利便性がよいような書き方だったのが不公平だと思いました。そのことも書いたので、少しでも意見として取りあげられたらと思います。

○ 移動図書館の休止も知りませんでした。アンケートについても知りませんでした。今日は現状を聞いておどろくことばかりでした。“本は人に語りかける”という言葉、印象的でした。色々と考える機会になりました。

○ 人数は少ないのだけど、川久保、萩谷のステーションはどうしたらいいのか、と思っています。「毎月」ではなくて１シーズン１回でも行ったらどうかな、とも思います。「まちごと図書館」構想はいろいろムリがあると思います。（誰がするのか、予算ずっとつくのかとか）このような会をたちあげて、勉強をされている会の皆さまを尊敬します。ありがとうございます。

○ 改めていろいろ気づかされることが多く、とても勉強になりました。ありがとうございました。

○ 利用率１％という数字で切り捨てる市行政の方針は、すべての市民へのサービスに通じる心配事です。

○ いろんな意見（声）、知らなかった事がわかってよかったです。もっといろんな人に知ってほしいと思いました。

○ 移動図書館再開はやはり実現していかねばと、強く思いました。７館構想の件、よく理解できました。道は険しいですが、少しずつ・・・。最後の方にフロアから出たご意見「これからが移動図書館の出番！！」の話、大いに共感した。

○「移動図書館再開をもとめる会」発足出来たこととても嬉しく思います。図書館（行政）と市民（もとめる会）の意識のギャップも感じました。しかし行政を変えるのは市民でしかないんですよね。図書館側が「もとめる会」の熱意に少しでも耳をかたむけてくれること期待します。上下関係ではなく、フラットの関係で向き合わない限り協働は生まれないと思います。今、「協働」の二文字、あらゆる所で言われていますが、ポイントはコーディネートだと思います。

○ 移動図書館「きぼう号」再開の向こうにみえる可能性―とても感じられる
報告会でした。ありがとうございました。

○ 子ども達に絵本を届けている（読み聞かせを）者として高槻の図書館のあり方について今日初めて耳にすることなどがあり、びっくりしています。全ての子ども達に絵本が届けられる形が望ましい事と思うので、この運動が続いて移動図書館の開設になればと思います。

○ 移動図書館をあまり利用していなかったので、今回ステーション利用率などよくわかりました。

○ 南大冠小学校のコミュニティライブラリーの件ですが、私は毎日のようにここの本を利用しているのですが、今年１２月末で閉館になるのでこまっています。

○ 中央図書館で読み聞かせを活動していますが、今日の会で図書館の現状がよくわかりました。読書の楽しみ、人の生きていく上での本からのエイキョウはその人の幸・不幸を左右するのではないかと私は思っています。まず図書館で本を知り、さらに求めたくなって購入して、そばに置いて宝物になる、人生を豊かにしてくれます。切り捨てることなく存続できるように私も協力したいと思いました。

○ 広報で知らされる公民館での図書館？移動図書館の休止へ・・・など、少しわかる内容でよかったです。市の図書館の現状が他市に比較し、貧弱ですね。市は財政状況はよいと思っていました。思い描かれたプラン、遠慮なくどしどしどんな場面でも市民に知らせてもらうことが。市民は知らないでいると思います。司書（常勤）は絶対必要です。子供の貧困のこと、高齢者の増加を考えるとますます移動図書館は必要なことではないでしょうか。

○ 小学校の図書館支援員をしている友人からききました。小学校の児童の数に対して本の数が少なく、市立図書館に借りに行っているそうです。子どもたちの読みたい本や調べ学習の本は今、友人が運搬しているので冊数も限度があるようです。学校の車動かしてほしい。毎日学校の図書室にいますが、子どもたちからの質問や探してほしい本、読みたい本、どんな本を読んだらいいかわからないという質問ばかりだそうです。少し説明したり、おすすめすると本を読むようになります。本を置いているだけだとなかなか手にとる機会はありません。本を置くだけでは図書館の役割はムリかな…と思います。それを聞いて、本を読むことにより、今の子どもたちは忙しくて時間がないので、本の中で経験したことが、その子の人格形成になるならとても大事なことだと実感します。将来をになう子どもたちに、いい本を読んでもらう、それを手渡す人というのは高槻市にとってもお金のこと以上に大切なことではないかと思います。

○ 大阪市（東淀川）に住む娘は移動図書の大ファンです。読みたい絵本などネットで予約して、公園に来る移動図書で借りているそうです。（子どもたちも楽しんでいるようです。）私は、阿武山図書館の地域に住んでおり、いつも利用させてもらっています。高槻の図書館の少なさ、司書さんの少なさに驚きました。市内の図書館から本を運んでくださるのはありがたいです。借りる期間が２Ｗに縮小されたのはちょっと困っています。

○ この会の方針が将来像も移動図書館存続であってほしい。移動図書館には学童指導員も５０冊団体貸出をさせてもらい、利用している所がたくさんありました。図書館が７館になろうが１０館になろうが、移動図書館はなくさないでほしいです。ますます高齢化社会になりますし、近隣に来てもらいたい。毎月来るのが良い！

○ 高槻の図書館事情がよく分かりました。子供達や高齢者にとって図書館から遠い地域には、移動図書館がぜひとも必要だと思います。

感想から

〇図書館まで遠く、行きにくい人たち、高齢者、病弱者、小さい子を持つ保護者等にとって、移動図書館は、ほんとうに夢を運ぶ希望を運ぶ車だと思います。今こそ、人と本をつなぐ大事な場をつくれる移動図書館の再開を望みます。うちは天王町ですが、中途半端？に図書館から遠いのです。

〇私の住む地域は、１９６０年初頭に宅地され、ご近所はほぼ高齢世帯一子ども世帯に、入院後のリハビリ・デイサービスなどの福祉サービスを活用する方も多く、近い将来自転車で図書館へ行けなくなったら、身近に来てくれる図書館があったらいいなと思います。

〇パワーポイントを使って紹介くださった日本各地や世界の移動図書館の姿を見せていただき、大変勉強になりました。小さくてお金をそんなにかけない一見プレハブかと見まがうユニークな形や、昔走っていた街角のロバのパン屋さんに似た小さな車など、歩いていける距離に来てくれる小さな移動図書館が、そこにありました。

〇地域には高齢者デイサービス、障がい者施設など、様々な地域福祉サービスが充実してきていますので、公民館にこだわらず、これらの施設へ定期的に配本・回収することで、図書館に出向くことのできない方にも、読書の喜びを提供できるように思います。それに、対面朗読というサービスを組み合わせれば、目の不自由になられた方に喜んでいただけるのではないでしょうか

〇旅行で見かけたことですが、街中のリハビリセンターのある建物に図書室があったり、グループホームやデイサービスの共同リビングや知的障がい者就労支援施設の一角に図書コーナーもあり、本の入れ替えは図書館が行っている事を知りました。創意工夫で少ない投資で大きな効果を上げる事ができるように思います。

〇高槻市のどこに住んでいても平等なサービスをと願っています。何も画一的なサービスをどの地域にもというのではなく、その地域のこれまで築いてきた既存にある医療・社会福祉法人等の民間も含めた教育・福祉サービス体系を利用しながら、持続可能なあり方を探っていくことではないかと思います。

○図書館の提示している「まちごと図書館」という方策は、先の見通しを持っているとはどうしても思えませんし、高槻のこれからの図書館を考える上で、単なる再開から、これまでの固定観念にしばられない、もっと大胆に発想を変えることが必要だなあと改めて思った次第です。いかなる施策も当事者の視点を欠いたものは悉く失敗に終わっていることを肝に銘じ、是非当事者の意見をくみ取っていただきたく、切に願っております。

○図書館の理念–「どんな人々にも平等に情報享受する権利を保証する」ということを再認識する機会になりました。移動図書館はそのシンボルのような存在だと思います。遠隔地や高齢者施設の方々、赤ちゃん・子供たち・・・インターネットが使えない方々はたくさんいらっしゃいます。災害のときに一番に必要になるのも移動図書館でしょう。楽しいイベントも企画できます。未来の図書館を語る上でもきぼう号をぜひ復活させてください。

○協力プランの説明は、やわらかく、わからない人にも丁寧なお話でとてもよかった。

○はじめの「ほんはまっています」から入ったのは、大変よかった。
移動図書館の実際の利用者の声をきくことが大切だと思いましたね。

○今回の会合は、かこさとしの絵本読みから始まり、スクリーンを数々見せて下さり、楽しみながら実情がわかりました。文化ネットワークが口火を切って呼びかけた２回の丁寧な学習会を経て今回の会合に広がったことも良い勉強になりました。

○二人の議員がおっしゃってたように、粘り強く行政と話し合ってくださいと言われていたことが心に留まりました。

○移動図書館は、図書館が近くにない、図書館に行くことの出来にくい人達（老人、赤ちゃんづれ、障がい者など等たとえ利用者が少ないとしても）を繋ぐ、まさに希望の車です。移動図書館が沢山の本を積んで（のぼりなど目立つものを立てて）町中を、山あいを走るのは、図書館の PR にもなります。移動図書館そのものが、本を媒介に地域のコミュニティの場になるよう、今一度工夫し、作りあげたらどうでしょう。

○世話人会が発足したことで、移動図書館再開に向けてのアピールが効果的だった。従来の移動図書館にとどまることなく、可能性のある図書館を想像してみましょう。プレゼンをみていて移動図書館の可能性、希望ある図書館の在り方を考えました。高槻市も地方創生を掲げるのであれば、図書館を地域の街づくりの核に据えて活性化を促すことが今大切なのではないかと思いました。なのに高槻市は後退していると感じました。

○PWP はやっぱりとてもわかりやすい。訴える力が大きいと感じました。響いてきました。今回、こういう会の起ち上げがあったからこそ、まだまだ移動図書館の可能性は大きい、きぼう号にきぼうを乗せて走らせたいものだと痛感しました。

○ビジュアルでわかりやすい主催者の方からの提案、資料を示されたこともあり、出席者の意見はより具体的に、しぼって現場からの実情を披露されるなどという双方向性に近いスタイルが少しづつ取れたような気がしました。移動図書館についてのこれからの方向や未来像は行政とのかかわりの中から、また意見交換を深め合う中から、そして私たちのみんなのより積み重ねる話し合い、フレキシブルな思考の中からそして、他府県の、世界の図書館情報をキャッチする中からつくられてゆくような気がしました。「図書館がたくさんできても、移動図書館は必要である」という声に力づけられました

○会はとても充実内容で本当にいい会だった。特にたくさんの意見を聞きながら、移動図書館再開のため、絶対に廃止にならないように、みんなで力をあわせて頑張っていきましょう。

【たくさんの感想を頂き、誠に有難うございます。全文を掲載できなかったことをお詫びします。】

フェイスブックにもアクセスを！

https://www.facebook.com/kibougo/

ＱＲコードも　よんでね！

2017 年 11 月 23 日
編集・発行「高槻の移動図書館再開をもとめる会―走れ！きぼう号」
（高槻市月見町 7－30　廣田方　　事務局　垣口・角所・森井）
coire2004@hotmail.com